

各関係機関団体の長
殿
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

水稻のトビイロウンカの発生状況について

トビイロウンカの9月2半旬の現地ほ場における発生状況をお知らせいたします。今後の防除対策の資料として活用をお願いします。

速報第7号

- 1 作物名 水稻
- 2 病虫害名 トビイロウンカ
- 3 発生地域 県下全域
- 4 発生量 平年並、前年より多

5 発生状況

- (1) トビイロウンカの10株当たり払い落とし成幼虫数は平均3.29頭（平年4.65頭、前年0.37頭）で、平年並、前年より多かった（図1）。
- (2) 粘着板に捕獲された本種の齢構成は、若齢40.4%、中齢25.9%、老齢12.2%、成虫21.6%であった。成虫のうち、増殖率の高い短翅型雌成虫の割合は38.2%であった。また若齢幼虫の割合が40%であったことから、今後の発生状況に注意が必要である。
- (3) 発生ほ場率は78.4%で平年よりやや高く、前年（平年50.0%、前年40.0%）より高かった（図2）。調査ほ場を10株当たり成幼虫数別にみると、1～10頭未満のほ場が最も多く全体の約38%で、「0頭」及び「1頭未満」を含む10頭未満のほ場の割合が89.2%であった（図3）。9月上中旬の要防除水準とされる成虫と老齢幼虫の合計数が10株当たり50頭に該当するほ場についてはみられなかった。

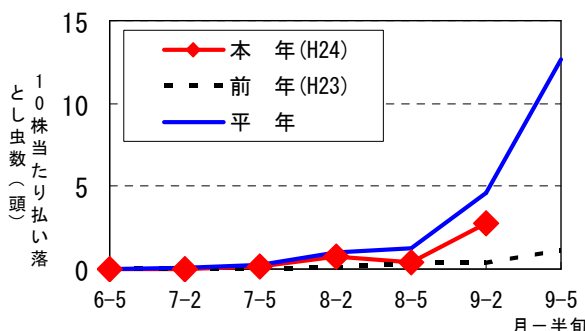


図1 トビイロウンカの発生密度の推移

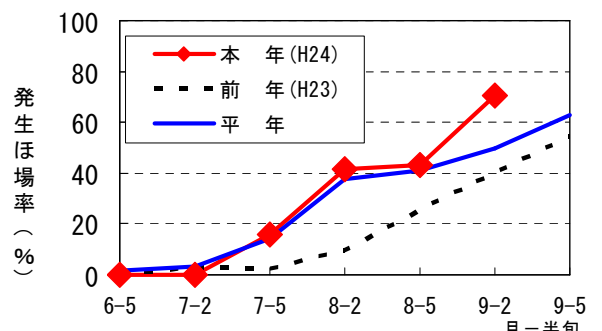


図2 トビイロウンカの発生ほ場率の推移

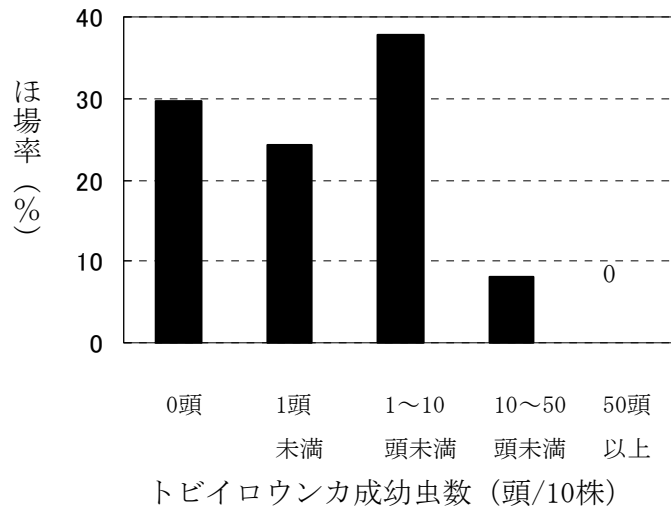


図3 トビイロウンカの密度別ほ場率の頻度

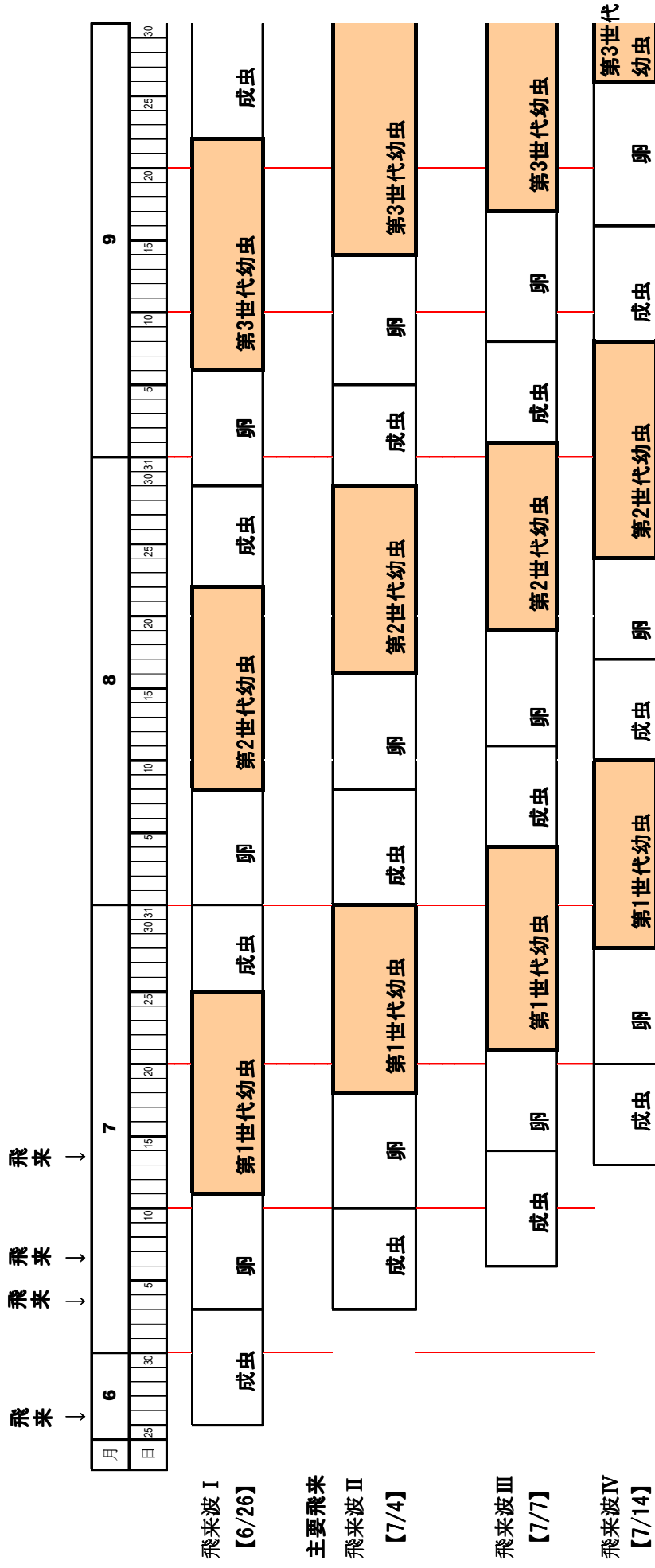
5 防除上注意すべき事項

- (1) トビイロウンカの発生は平年並であったが、巡回調査地点以外の一部ほ場で要防除水準を超えるところがみられた。また、地域やほ場によって発生時期や発生量が異なるため、ほ場での発生状況を確認し、発生予想パターン図(図4)を参考に、発生量が要防除水準を超える場合は直ちに防除を実施する。

要防除水準：9月上中旬10株当たりの成虫と老齢幼虫の合計数が50頭

- (2) 出穂期以後は薬剤が株元まで到達しにくくなるため、株元に確実に届くようていねいに散布する。
- (3) 薬剤防除に際しては、必ず薬剤袋等のラベルに記載された対象病害虫名・使用時期等を確認し、使用基準を遵守する。
- (4) 薬剤の散布時には、近隣作物(野菜等)や住宅街への飛散防止を徹底する。
- (4) 今後の発生状況については、防除所ホームページ (<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka/>)を参照する。

図4 飛来に基づくトビロウソク発生予想パターン図 (平成24年9月7日作成)



(注) (1) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。发育零点12.0°C、发育上限温度28.5°C、发育停止温度33.0°C、有効積算温度(成虫期間)100.0°C、卵期間109.4°C、幼虫期間189.4°C

(2) 気温はアマガス太宰府を使用した。